

### 3 研修会関係

#### 研究・研修報告書

2026 年 8 月 7 日

小牧市議会議長 様

会派名 こまき民主市議団  
代表者氏名 小沢 国大

研究・研修の結果を報告します。

#### 記

##### 1 参加議員

小川真由美、小沢国大、諸岡英実

##### 2 日程

2026 年 7 月 24 日（金）

##### 3 研究・研修名

一宮市立いずみ学園

##### 4 主催者

一宮市立いずみ学園

##### 5 会場

一宮市立いずみ学園

##### 6 視察の目的

児童福祉法に基づき設置された児童発達支援の中核をなす、児童発達支援センターを視察し、小牧市の児童発達支援に関する構造的課題を把握し、展望を検討するため。

##### 7 主な内容

別紙参照

##### 8 所感・提言・課題等

一宮市立いずみ学園は、昭和 34 年に精神薄弱児通園施設として発足し、67 年の歴史を持つ児童福祉法第 43 条に基づく児童発達支援センターである。平成 24 年に福祉型児童発達支援センターへ移行、令和 6 年の法改正で類型が一元化され現在の名称となっ

### 3 研修会関係

た。定員 33 人で、通所部門では重度の知的障害児を対象とした児童発達支援を行い、相談支援部門では療育相談・障害児相談支援・保育所等訪問支援・巡回訪問支援・地域支援事業を実施している。直営の強みを生かし、民間事業所より手厚い人員配置を行っている点が特徴である。課題としては、外国由来在園児の増加や支援を要する保護者の増加への対応、インクルージョンの推進、通園棟（昭和 59 年築・バリアフリー未対応）の老朽化、相談ニーズの地区偏在、専門人材の固定化などが挙げられる。今後は施設の長寿命化・建替え・移転改築の検討、地区ごとの事業分担の再調整、市内親子通園施設のあり方の見直しが展望として示されている。

小牧市では、社会福祉協議会に委託し、独自事業としてあさひ学園にて親子通園事業を実施している。早期療育の観点から、子どもと保護者で通園し、子育ての不安や悩みを共に考え、サポートし、小集団での生活や遊びを通して自分でやろうとする気持ちを育て、基本的な生活習慣の獲得や人とのかかわるコミュニケーションの力、日常生活に必要なルール等を学べるよう支援している。

いずみ学園は児童福祉法上の「児童発達支援センター」として、通所支援に加え、地域の中核的支援施設（他施設への助言・援助・相談支援の実施義務）という法定の役割を担う直営施設である。あさひ学園は、公的には「母子通園施設」であり、児童発達支援センターの法的類型ではなく、社会福祉協議会への委託による市単独事業として運営されている点、低年齢児の早期療育の入口支援に特化しているという点で、役割が大きく異なる。小牧市と同様、一宮市でも共働き世帯の増加を背景にいずみ学園と保育施設を並行して利用する保護者も多く、少子化への対応を含めニーズの変容への親子通園施設の在り方を再検討する段階にきているとの課題提起もあった。

いずみ学園は直営の強みを生かし、通所部門・相談支援部門ともに民間事業よりも手厚い人員配置をし、通所部門は重度の知的障害児を対象とする児童発達支援を、相談支援部門は待ち時間のほとんどない療育相談の受付体制を可能としている。公立であるからこそ保育園や幼稚園、学校との連携が民間事業所より比較的容易にでき、相談支援部門では、他事業所には実施困難な水準の地域支援事業の展開を図ることができていることが、本市の療育支援体制との大きな違いであることが示された。

本市においても、療育のニーズは年々高まっている。相談支援などは児童発達支援センターに委託し、連携機能強化を図っているが、人材不足、人員配置の不足が慢性化していることも大きな課題であり、構造的に相談支援を必要とする児童を拾い切れていない可能性が捨てきれない。児童福祉法に基づいた療育の中核を担う拠点を明確にする必要があると考える。